



コンボラル®

手軽で使いやすい! 野菜・畑作用除草剤

粒剤
タイプ



上手な使い方

<p>麦にさ陸 類んじいも 稲</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●麦類、陸稲で使用する場合、覆土深は必ず2~3cmになるようにする。 ●大麦は砂質土壌で使用する場合、登録内の低用量で使用する。 ●水田裏作の麦類で使用する場合、過湿状態では使用しない。 ●さといものマルチ栽培で使用する場合、植付後マルチ前に散布し、さといも萌芽後は直ちにマルチ切開を行う。
<p>ねぎ</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●トンネル、トンネル・マルチ、ハウス栽培では使用しない。 ●播種床や直播栽培では使用しない。
<p>はくさい キャベツ</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●セル成形苗では使用しない。 ●トンネル、トンネル・マルチ、ハウス栽培では使用しない。 ●播種床や直播栽培では使用しない。
<p>たまねぎ</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●葉害をさけるため定植7日前までに散布する。 ●トンネル、トンネル・マルチ、ハウス栽培では使用しない。
<p>ばれいしょ やまのいも こんにゃく</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●雑草発生前にコンボラル® 散布 ばれいしょ 植付後~萌芽前(雑草発生前) やまのいも 植付後~萌芽前(植付後30日まで) こんにゃく 植付後・培土後(萌芽前)
<p>こんにゃく</p>		<ul style="list-style-type: none"> ●露地・マルチ栽培でも使用できます。

●必ず雑草発生前に均一に散布して下さい。 ●夕方か曇った日に散布して下さい。 ●砂質土壌では登録内の低用量で使用して下さい。 ●土壌表面が湿っている時に散布するとより効果的です。

特長

- 広範囲の畑地一年生雑草に優れた効果を示します。
- 除草効果の持続期間が長い薬剤です。
- 粒剤タイプなので、使いやすく、手撒きもできます。

適用作物・雑草と使用方法

2019年9月現在の登録内容

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール 当り 使用量	使用回数*			使用方法	適用地帯
					本剤	トリフル ラリン	ペンディ メタリン		
ねぎ	畑地 1年生雑草 (ツクサ、 キク科 を除く)	定植直後	全土壌	4~6kg	1回	1回	全面 土壌 散布	全域	
やまのいも		植付後~萌芽前 ただし、植付後30日まで							
にんじん		は種直後							
さといも		植付直後							
キャベツ はくさい		定植前 (植穴掘前)							
こんにゃく		植付後、培土後 (萌芽前)							
にんにく		植付前~植付後 ただし、収穫90日前まで							
たまねぎ		定植後 ただし、収穫75日前まで							
たまねぎ (露地マルチ栽培)		定植前 (マルチ前)							
麦類		は種直後							
陸稲		植付後~萌芽前 (雑草発生前)							
ばれいしょ									砂壌土 ~埴土
					1回			関東以西 北海道を 除く全域	

*印は収穫物への残留回避のため、本剤およびそれぞれの有効成分を含む農業の総使用回数の制限を示します。

⚠ 使用上の注意事項

- 使用量に合わせ秤量し、使いきって下さい。
- 本剤は雑草の発生前~発芽時に有効ですが、雑草の生育が進むと急激に効果が低下しますので、使用時期を失しないように土壌表面に均一に散布して下さい。
- 土壌が非常に乾いている時は効果が劣りますので、土壌が適当に湿っている時、または適当に湿らせてから表面散布して下さい。
- 風によってまきむらを生じやすいので注意して下さい。
- 本剤はイネ科および広葉の一年生雑草に効果がありますが、キク科雑草とツクサには効果が劣りますので、これらの雑草の優占圃場では使用しないで下さい。
- 使用に当っては、砕土および整地は丁寧に行ってください。また、覆土は細かく砕いた土を用いてうすすぎないように丁寧に行ってください。麦類、陸稲は葉害を生じやすいので、覆土深は2~3cmになるように注意して下さい。とくに大麦は砂質土壌で使用する場合、登録内の低薬量で使用して下さい。
- キャベツおよびはくさいのセル成型苗には葉害が発生するおそれがありますので使用をさけて下さい。
- たまねぎ(露地マルチ栽培)に使用する場合には、葉害をさけるため定植7日前までに散布して下さい。
- 水田裏作の麦類に使用する場合には、排水不良田など土壌が湿りすぎていると砕土や覆土が不十分となり、効果むらや葉害の原因となることがありますので、過湿状態での使用はさけて下さい。
- 激しい降雨が予想される時には使用をさけて下さい。
- 重複散布すると葉害のおそれがありますので、まきむらのないように均一に散布して下さい。
- 蚕に対して影響がありますので、周辺の桑葉にはかからないようにして下さい。

- 本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 本剤は靴、作業衣等に付着すると着色しますので取り扱いに注意して下さい。
- 本剤はマルチ、トンネルやハウス栽培では葉害をさけるために特別な注意が必要ですので、使用する前に必ず農業技術者によく相談して下さい。

⚠ 安全使用上の注意事項

- 通常の使用方法では危険性は低いですが、誤食などのないように注意して下さい。
- 本剤は眼に対して刺激性がありますので、眼に入った場合には直ちに水洗い、眼科医の手当を受けて下さい。
- 散布の際は農業用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用して下さい。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換して下さい。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯して下さい。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意して下さい。
- 本剤は水産動植物(藻類)に影響を及ぼすおそれがありますので、河川、養殖池に飛散、流入しないよう注意して使用して下さい。
- 散布器具および容器の洗浄水は、河川等に流さないで下さい。また、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理して下さい。
- 直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管して下さい。
- 漏出時は、保護具を着用し掃き取り回収して下さい。
- 火災時は、適切な保護具を着用し消化剤等で消火に努めて下さい。
- 移送取扱いは、丁寧に行ってください。

● 使用前にはラベルをよく読んで下さい。 ● ラベルの記載以外には使用しないで下さい。 ● 本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。

バイエル クロップサイエンス株式会社

東京都千代田区丸の内1-6-5 〒100-8262 <https://cropscience.bayer.jp/>

お客様相談室 ☎0120-575-078 9:00~12:00, 13:00~17:00
土・日・祝日を除く

F-3017 19.09.NY